

令和5年2月1日

国立大学法人一橋大学長
中野 聡 殿

国立大学法人一橋大学
学長選考・監察会議議長 貴堂 嘉之

国立大学法人一橋大学長の業務執行状況の確認について（通知）

このことについて、国立大学法人一橋大学学長選考・監察会議による、対象期間（令和3年4月1日～令和4年3月31日）における結果概要を下記のとおり通知いたします。

記

- (1) 昨年度に引き続き、執行部の良好なチームワークのもと、ソーシャル・データサイエンス学部・研究科設置準備、新型コロナウイルス感染症への対策の徹底と学生の学修機会の確保の両立のための様々な取組、ダイバーシティ推進への取組など、諸課題に適切に対応し法人運営を進めている点について、主に以下の事項を掲げ評価する。
 - ・文部科学省との事前相談を重ね、学内協議や諸会議での審議を経て、多様な意見の調整を行いつつソーシャル・データサイエンス学部・研究科の設置計画書を取りまとめ、文部科学省への提出に至ったこと
 - ・多くの科目を対面授業で開講する授業方針により対面教育の機会を維持したこと、グローバル・アクティブ・ラーニングの推進等により教育の質を担保したこと、コロナ禍の影響を受けた学生への各種支援の実施、兼松講堂におけるワクチン接種促進の取組などコロナ禍における課題への対応を積極的に行ったこと
 - ・ダイバーシティ推進の取組について、学長見解において重要性を改めて表明したこと、経営協議会学外委員4名の任期満了時に新たに女性2名を選任したことで男女同数としたこと、国立大学法人運営費交付金の再配分の制度である「成果を中心とする実績状況」における「共通指標」において、令和3

年度までの取組の評価として「ダイバーシティ環境醸成の状況」が指定国立大学法人内で総合1位となったこと

- ・ビジネススクールの国際認証である AACSB International - The Association to Advance Collegiate Schools of Business (AACSB) を、本学ビジネススクールが日本の国公立大学で初めて取得したこと

- (2) ソーシャル・データサイエンス学部・研究科の設置準備など、指定国立大学法人構想を推進している中において、研究力の強化に向けて徹底した自己分析に基づく取組が必要な状況であったが、文部科学省から指摘を受けるまで抜本的な改革には着手していなかった。この点は、見通しの甘さを指摘せざるを得ない。

一方、指摘後速やかに、社会科学高等研究院 (HIAS) における若手研究者 (ポストドク) の国際人材獲得プログラム (HIAS25 仮称) の公募を開始するなど、指定国立大学法人の維持を目指すという明確な意思の下、徹底した研究力分析と改革に乗り出したことは評価できる。

今後とも学長のリーダーシップの下、部局長会議や役員会のみならず、教育研究評議会や経営協議会の場合も存分に活用するなど、学内外の多様な意見を取り入れながら大学経営及び研究力強化・国際競争力強化に向けた大学改革を進めていくことを期待したい。

また、世界最高水準の大学は、多様性に富む学術コミュニティを実現していることは周知のとおりである。若手研究者比率や女子学生比率といった本学が抱える構造的な課題について、対応の具体的方策を検討し着実に実行していくことを期待したい。

以上